

農繁期

レポート

令和3年 8月号

栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社

水田面積 18.4アール

保証量 玄米 828kg

形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二 (エコファームグループ代表)

8月に入り穂がぞろぞろと出始めて一気に秋の到来を時間する時期になってきました。今月上旬は天候不順に悩まされカメムシの防除のタイミングが雨の止み間や雨が降る直前と難しい年となりましたが今のところ目立った被害が見えないので安心してしています。また強く長い雨が続きましたが幸い大きな災害もなく無事に稲刈りが迎えられたらと思っています。例年より涼しいように思いますので稲刈りも昨年よりは少し遅いかなと考えております。

8月の作業内容

1.カメムシ防除

穂がでた出穂期にカメムシは田んぼに飛んできます。防除は全体の7-8割が出穂した時と出穂後10日頃の最低2回行います。籾が水分状態のときにカメムシは針を刺して汁を吸ってしまい、吸われるとお米に黒く斑点ができてしまいます。

2.光合成と生育状況チェック

出穂後の晴天は重要で開花後、光合成によりデンプンを生産しお米になります。昼間作ったデンプンを夜稲に送り込むのですが、夜間の気温が高いとデンプンを消費するため、夜間の気温が低い方が美味しいお米ができると言われています。

3.機械点検

9月から稲刈りが始まります。その前に使用する機械の点検を8月中に行います。コンバイン、籾摺り機、乾燥機など、多種ありきちんと作動しないと全ての業務が止まってしまいます。入念に行い、来る稲刈りに備えます。

稲の花

稲の花はなかなか見ることができません。大体11時~13時頃の2時間程度に見せてくれます。花びらはなく、中から6本のおしべが出て、めしべに付いた花粉と受精をすると閉じてしまい、もう開くことはないのでも貴重です。

